

ジュニア世界選手権メンバー紹介

尾上秀雄

ジュニア世界選手権 (JWOC 2002) は、7月8~13日の日程でスペインで開催される。日本代表選手は男女各6名で、男子49名、女子15名から選ばれた精鋭である

今年のジュニア世界選手権大 (JWOC 2002) は、7月8~13日の日程でスペインで開催される。31ヶ国から364名がエントリーしており、競技はショート(予選、決勝) クラシック、リレーが行われる。日本からの代表選手は、4月28日に開催された選考会で選ばれた。

今年は男女とも昨年に引き続き JWOC に出場する選手が2人ずついる。チームの中に経験者がいることはチーム全体に有形無形の落ち着きを与えるはずだ。期待しよう。また今回初めて走力優先で推薦した選手が含まれている。彼らが JWOC およびその後でどういう成長を見せるかに注目しよう。今後の可能性を広げる試金石となるはずだ。この中から次世代を担う選手が育って欲しいところだ。以下、その選手およびオフィシャルを紹介する。

下村佳奈 (岩手大学)



セレ1位通過 ICS01 WE-AF 出場
岩手大学から初めての JWOC 選手の誕生。岩手大学の今後の発展を願うにも自分が頑張らねばとの意気に燃える。小柄ながら山の中の走りは力強く速い。「JWOC は去年から意識してきたので、行くことができ嬉しいです。今回のチャンスを活かしてどんどん上を目指していきたいです。もちろん JWOC も頑張ります」と元気だ。

花木睦子 (千葉大学)



セレ2位通過 ICS01 WF 優勝
千葉大学はこの春のインカレを含め過去に何人もインカレ入賞者を出している名門だが、JWOC 選手は初めてになる。インカレ、全日本の新人クラスで上位入賞を果たすなど安定した実績を残している。「JWOC を様々な面で勉強し、自分で学んでいくためにも、頑張って向かっていきたいと思います。」と謙虚に語る。

川島沙耶香 (東京女子大学)



セレ3位通過 IC01 WE 11位
JWOC2001
この春のインカレのリレーでは東京女子大学の代表として2走をしっかりとつなぎ団体優勝の一役を担った。クラシックはWEで11位。今年2回目の挑戦となる JWOC でさらに上を目指す。本人コメントは「悔いの残らないものにしていきたいです」との一言だけだが、それにすべてが込められている。

櫻井優子 (宮城学院女子大学)

セレ4位通過 ICS01 WE-AF 7位

JWOC2001

インカレショートではAファイナル7位と惜しくも入賞を逃したが、宮城学



院同期の仲間を支えられて着実にレベルアップしてきているのは確かだ。「今回は2回目の参加なので、去年よりも上の記録がだせるように頑張りたいです」と密かな意欲を見せる。

塚八ゆかり (京都橘女子大学)



スコード推薦 全日本W20A 1位
JWOC の先輩を多く送り出している名門大学からの代表だけあってOG やコーチの教えをしっかりと吸収している。「スペインに行けることになったのは、いつも教えてくれているコーチの方々や多くの先輩のおかげだと思っています。これを機にもっとうまくなりたいです。外国に行くのは初めてなので、他国の選手を観察してみたいです」

中野真希 (日本女子大学)

スコード推薦 全日本W20A 2位
インカレに感動してやる気を出している1人。早稲田OC の恵まれた環境の中でこれからの伸びが期待される。JWOC でそのきっかけをつかみたいところだ。



「JWOCという大きなチャンスにめぐり合えて、本当に幸せです。このすばらしい機会を無駄にしないよう多くのことを吸収しこれからに生かしたいです」

久野雄介 (東京大学)



セレ1位通過 IC01 MEクラス出場 JWOC2001

昨年秋の秩父横瀬ショート大会の予選では松澤俊行を始めとするエリートを抑えてトップ通過。また春のインカレのリレーでは東京大学の3走として一気にトップに出る活躍で大器の片鱗を見せた。「2回目の挑戦です。一年前に比べOLの様々な要素に気付き、なかなか良い準備ができています。」ということなので大いに期待しよう。

山田高志 (桐朋学園高校卒)



セレ2位通過 全日本M20E優勝 JWOC2001
インターハイ3連覇、全日本M20E

優勝の山田もこの春に高校を卒業、夏から長期のヨーロッパ遠征に入る。2005年を目指すにはこの夏に何かを掴んで来ることが必要だろう。「昨年のJWOCではショートでBファイナル進出を果たしたので今年はそれ以上を目指す」ことはそのステップとして達成すべき目標だ。

濱田 尚 (東北大学)



セレ3位通過 山岳出身(国体出場) 独特の明るいキャラクターでチームに活気を与える。

「東大大会にエリート却下+駐車券抽選ハズレで、へこみ気味の今日この頃。世界にむけて、ただ一言、「納豆命!」納豆の完全食っぷりにならい、完全体をめざし、そして、納豆のようなねばっこさにならい、粘りのレースを展開したいと思います。」

横山友彦 (東北大学)



セレ4位通過 ICS01 ME-AF出場 早生まれのため3年でのJWOC挑戦となる。これを機に基礎を見直し、トレーニング量も増やしている。ショート競技でのBファイナル進出が目標。「このチャンスをまず全身で楽しみたいと思います。1つ1つのレースを自分のステップアップの為に、大事に走ってきます。」と落ち着いて話す。

楠本俊壮 (京都大学)

スコード推薦 陸上出身 ICS01 MF1 2位

5kmの記録は16:01。インカレで大活躍している京都大学の中にあっ



て次世代を担う素材としての期待は大きい。体力を建て直すことと、オリエンテーリングの基礎技術の強化が当面の課題である。

「若者らしい思い切りの良いレース内容と、自分らしい結果が目標です。」と謙虚に語る。

小林恭輔 (東北大学)



スコード推薦 陸上出身 IC01 MF1 優勝

5kmの記録は16:14。走力を生かして春秋のインカレでは新人クラスで共に優勝している。しっかり走り込み地図読みにも注力してレベルアップを図る。

「他のJWOC代表選手と比較するとまだまだ未熟者で課題は山積みです。でもそれだけ伸びる余地があるので頑張ります」とやる気を見せる。

今年は、例年の尾上団長に加えて、スコードから藤井範久が男子コーチとして、また女子コーチとして伊藤恭子と志村直子が同行する。コーチ陣も充実した今回のJWOCで、選手たちがどんな活躍をしてくれるか楽しみである。その中から、2005年を戦う選手が生まれるかもしれない。